これまでの議論の整理と今後の課題についての意見

2005年4月26日

1. 政策目標と新たな科学技術戦略について

国民へのわかりやすさと成果の還元の観点から、科学技術を活用して、政策目標をどのように実現していくかについて、政策目標ごとにワーキング・グループやタスクフォースなどを設けて検討を行うべきである。

個別意見については、以下の通り。

- (1) 目標3から目標6について、既存の組織も活用しつつ、大政策目標か中政策目標毎にワーキング・グループやタスクフォースなどを設置し、数値目標の設定、海外とのベンチマーク、ロードマップの活用、府省連携などを通じて、政策目標をどのように実現していくかについて検討を行うべきである。
- (2) 政策目標についての個別意見は以下の通り。
 - 「のものづくりナンバーワン国家の実現」の個別政策目標の「バイオテクノロジーを駆使する革新的生産プロセスの実現」を「バイオテクノロジーやITを駆使する革新的開発・生産プロセスの実現」に修正すべきである。
 - 「の国と社会の安全確保」の個別政策目標の中に、「情報収集、測位、ロケットなどによる国家安全保障の確保」を加えるべきである。また、「燃料・資源の安定供給」を「アジアを視野に入れた燃料・資源の安定供給」に修正すべきである。
- (3) 重点4分野については、これまでの「知」の蓄積を国としての活力の創出につなげることが重要であり、政策目標実現への貢献度合いの評価、海外とのベンチマークやロードマップの活用などによるさらなる重点化に取り組むとともに、重点4分野以外の4分野についても、出口を見据えた政策目標の実現への貢献度合いなどにより厳格な絞込みを行いつつ、重点化の対象とすべきである。

2 . 政府研究開発投資額の目標について

対 GDP 比率 1 % の投資を実現するとともに、具体的な目標額を設定すべきである。

第 2 期で盛り込まれた「少なくとも欧米の水準の確保」は達成されているとはいいがたい。また、欧米が増大傾向にあるのに対して、わが国は第 2 期の初年度が最も多く、その後減少傾向にある。科学技術創造立国を実現するため、政府研究開発投資の対 GDP 比約 0.8% から、現在の欧米を上回る対 GDP 比率 1 % への投資の増大を実現するとともに、具体的な目標額を設定すべきである。

3 . 科学技術システム改革について

世界トップレベルの研究と世界に通用する人材の育成を目的として、10 年先をにらんで、大学と産業界が徹底議論した上でテーマを設定し、異分野の人材を集める、いわゆる先端技術融合型 COE を設置すべきである（次ページ参照）。

- (1) 特に人材育成の面から、世界にとって魅力ある大学をシステムとして作っていくために、10 年先をにらんで産学の知恵を集めて研究領域やテーマを設定し、それを遂行するために、異分野の人材を内外から集めたり、異分野の組織をネットワークで結ぶような拠点、いわゆる先端技術融合型 COE を設立すべきである。
- (2) 競争的資金と基盤的資金のバランスのあり方について、十分な検討を行なうべきである。その際、研究と教育とを分けて考えることが必要である。

以 上

先端技術融合型COEの創設

世界トップレベルの研究と世界に通用する人材の育成を目的とした
大学を核とする研究拠点の整備

優秀な教授・助教授など
(海外からの研究者を含む)

人材育成機能も有する
公的研究機関が、
先端技術融合型
COEの役割を果すこと
も考えられる。

COEの主な特徴

大学院生、
ポスドクなど

研究テーマの設定
10年先をにらむ、既存の技術領域を越える融合
領域、産学協働(徹底的な議論)で設定

異分野から広く有能な人材を結集

産業界(マネ
ジメント人材
等)・公的
研究機関など

世界トップレベルの研究、世界に通用する人材、産業界を含めた知的・人的
ネットワークのセンター